

ぱれっとプロジェクト始動!

地域に根ざすための拠点づくり

ぱれっとが描く未来像 ③

10月初旬、ようやく氷川敬老館解体工事も終わり土地が更地になりました。そして、10月24日、新設グループホーム並びに福祉作業所おかし屋ぱれっと建設に伴った工事業者を決定するための入札が行なわれました。3社の応募があり、結果1億3千万円(税抜)で落札した大出産業株式会社に決定しました。11月初旬に地鎮祭を執り行ない、中旬から着工予定でいます。

1. 資金計画

解体工事費については、ほぼ渋谷区から全額補助されます。また、グループホーム新設のための渋谷区からの補助金7,500万円に加え、東京都から28,853,000円が決定しています。問題なのは、補助金が出るタイミングです。解体工事は終了していますが、書類手続きに手間取り未だに渋谷区から解体工事補助金が下りません。また、建設費補助については、業者との契約によっては手付金が必要になってきます。皆様からご支援いただいている私募債やご寄附が解体工事費や設計費用の一部支払いに大きく役立てられています。来年6月末完成に向けて綿密な資金計画が必要とされています。

以前からお伝えしています、地元金融機関の西武信用金庫様から、NPO向け低金利融資(年1%)チェンジというプロジェクトに応募し、融資を受けられることは決定

入札を経て、ようやく施工業者が決定しました。総建築費1億3千万円規模の事業、東京都と渋谷区から助成金を受けグループホームを新設することは、文字通り、ぱれっとにとって巨大プロジェクト。中期計画実現に向け1歩ずつ着実に前進しています。

しています。融資課長と幾度となく面談を行ない、見通しの立たない区の補助金のタイミングを考えず、無理のない自己資金の範囲内で資金計画を立て、繋ぎ融資を進めることになりました。移転に伴う新規機材購入費や引っ越し代、現状復帰費用や設計費等、施工費以外にかかる経費を加えると、総額1億7千万円にのぼります。大よそ3,000万円の借金を見込んでいます。第2四半期理事会にて資金計画は了承され、返済計画では、利用者の雇用拡大に伴う訓練等給付費の増額が充てられます。

2. 近隣への説明会

解体工事が進む中、近隣住民から区役所の方に、騒音や振動での苦情のご意見を含め、どういった施設が建つのかという問い合わせが入るようになりました。区で建てた鉄骨の建物はかなり頑丈に建てられており、土台コンクリートの掘削に大変手間取りました。何が建つのかという問い合わせは、近隣の方よりも同じ町会に住む方からの不安の声のようです。

建設予定の建物の規模からすると、条例上近隣説明会を開く対象ではありませんでした。しかし、こうした声を聞く限り、地域住民への不安を残しながら事業を進めることはぱれっとの組織にとってマイナスであり、これからさらに地域に根差そうとしている我々にとって、地域の人たち

からの理解は重要な要素と考え、11月6日と10日の2回に渡り、渋谷区・建設業者と共に、工事工程並びに事業説明を執り行ないました。

3. おかし屋店舗空間をどう生かすか

地域に根差すためには、おかし屋ぱれっとの店舗の利用方法が大きな課題となります。イトイン事業によって、売り上げを上げることも課題の一つですが、店舗空間をどのように活用すればより地域活性につながり、人々との交流が図れ、結果地域に根差していけるのか。2年半前からぱれっと勉強会を開き、30年来ぱれっとが意識的に取り組んできた地域に根差す理念が果たして実現してきているのか検証されました。

ぱれっとが拠点を作ることによって、人間関係の希薄さが課題と言われる現代社会において、私たちがどのように働きかけ、ニーズを掘り起こし、人と人がつながるしかけを作り、架け橋となれるのか・・・今回も勉強会を開き、ステーキホルダーとワークショップを行ないながら、おかし屋店舗空間をどのように生かすか話し合われました。

また、店舗作りについては、売り上げを上げるための集客だけではなく、入りたくなる、人に教えたくなる、人を呼びたくなる、お互い顔の見える関係性を広げるといった障がいのある無しに限らず、色々な人とのつながりや可能性を広げるために、プロのデザイナーを起用し、建設とは別に空間づくりを進めることになりました。設計などの費用については、店舗空間建設費補助を目的とした助成金を申請することにしました。

(認定 NPO 法人ぱれっと理事長 相馬宏昭)

●ビジョンの共有(勉強会に向けて)

ぱれっと新規プロジェクトに関して、おかし屋移転と同時に構えることになる店舗空間の利用について、「ぱれっとが如何に地域に根ざしていくか」といったテーマでの勉強会を企画することになりました。それに伴い、ぱれっとスタッフ内で勉強会実行委員会(相馬・左右木・玉井・佐々木)を立ち上げ、勉強会の持ち方について、何度か話し合いを重ねてきました。

様々な意見やアイデアを出してもらえよう、という切り口から話し合いを深めるのがいいのか、意見が出せる雰囲気にするためにはどうしたら良いかなど、議論しました。話し合いをする中で、「ぱれっとが地域に根ざす」とはどういったことなのかを確認しつつ、地域に潜む課題や新たな展開をスタッフだけでなく、みなさんと楽しみながら共に考えていきたいとの想いが強くなりました。勉強会の進め方について話し合いを重ねることで、今後の新規プロジェクトのビジョンを改めて共有することもできました。

<勉強会速報!!>

10月24日(土)に、勉強会を開催しました。当日は、スタッフ、理事、親、ボランティア総勢33名が集まり、4つのグループに分かれ、グループディスカッションを行ないました。「地域に根ざす店舗スペースの役割と生かし方」について、各グループで活発な熱いディスカッションが繰り広げられました。

詳しくは、次号のぱれっとつうしんに掲載します。地域に根ざすための店舗スペース利用を考える実行委員会を立ち上げ、話し合いを行なっていく予定です。

(えびす・ぱれっとホーム 佐々木志保)